

# 災害の「備え」チェックリスト

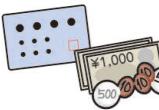
## 非常用持ち出し袋 避難の際に持ち出すもの

- 水
- 食品  
(ご飯(アルファ米など)、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど;最低3日分の用意)
- 防災用ヘルメット・防災ズキン
- 衣類・下着
- レインウェア
- ひもなしのズック靴
- 懐中電灯(※手動充電式が便利)
- 携帯ラジオ(※手動充電式が便利)
- 予備電池・携帯充電器
- マッチ・ろうそく
- 救急用品  
(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)
- 使い捨てカイロ
- ブランケット
- 車手
- 洗面用具
- 歯ブラシ・歯磨き粉
- タオル
- ペン・ノート



### 一緒に持ち出そう

- 貴重品  
(通帳、現金、パスポート、運転免許証、病院の診察券、マイナンバーカードなど)



### 感染症対策にも有効です

- マスク
- 手指消毒用アルコール
- 石けん・ハンドソープ
- ウェットティッシュ
- 体温計



## 備蓄品 家に備えておくもの

### 食料・飲料・生活必需品などの備蓄の例(人数分用意しましょう)

- 食料や水(最低3日分、できれば1週間分)×家族分  
保存期間の長いものを多めに買っておき、消費したら補充するという習慣にしていれば、常に食料の備蓄が可能(ローリング・ストック)

- 飲料水  
3日分(1人1日3リットルが目安)

- 非常食  
3日分の食料として、ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど

- 生活用品  
例えば、ティッシュ、トイレットペーパー、マッチ・ろうそく、カセットコンロ、ラップ、ごみ袋、ポリタンク、携帯用トイレなど



ほかにも、家庭で必要なものは日ごろから備えておきましょう。  
電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。  
防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を揃えるようにしましょう。

ほかにも、家庭で必要なものは日ごろから備えておきましょう

# 過去の災害

## 令和元年10月台風19号

令和元年10月12日から13日にかけて台風19号が本町を襲いました。

この台風の影響により、県道足利千代田線が新福寺から赤岩までの区間に冠水のため通行止めとなり、新谷田川放水路・二ノ堰橋付近において溢水が起こりました。

台風における被害では、家屋被害では床上浸水2戸、床下浸水26戸の計28戸の被害が発生しました。また、千代田町では初めて避難指示を発令するとともに避難所・避難場所を7カ所開設し、最大で776名の方が避難しました。



通常時の利根川の様子

写真提供 国土交通省利根川上流事務所



台風19号により増水した利根川の様子



溢水した新谷田川放水路・二ノ堰橋付近の様子

## 平成10年9月台風5号

平成10年9月15日夜半から16日昼過ぎにかけて台風5号が上陸しました。

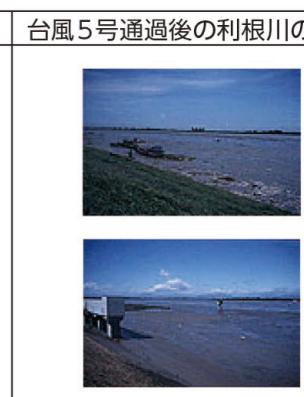
この台風は、各地で大きな被害をもたらしましたが、幸いながら千代田町は大きな被害には及びませんでした。普段千代田町を流れる利根川の水位は、1.6mくらいですが、このときは最高水位で6.4mを記録しました。



台風5号通過直後の利根大堰:  
(午後1時頃)近年になく増水の状態だが、この後も増え続ける。



通常の利根川の様子



台風5号通過後の利根川の様子

## 明治43年の利根川大洪水

明治43年(1910年)8月、長雨が降り続き、ついに8月11日午前0時30分に富永村(千代田町は西部が旧の永楽村、東部が旧の富永村で昭和30年に合併)大字上五箇駒形地先、同2時に富永村、佐貫村(現在の明和町)入会地先の堤防が決壊し、未會有の大洪水を引き起きました。この洪水は、田畠や家屋を次々と濁流で飲み込んでいき、ついには死者14名、行方不明者28名、負傷者3名(資料により数が異なります)という大惨事となりました。

この惨事を記すものとして、千代田町大字上五箇の青年研修所跡(現在の消防団詰所)に昭和10年に富永村が建てた水害記念碑があります。

記念碑には、当時の惨状の様子が克明に刻み込まれています。この碑によりますと、洪水は「濁水魔の如く暴威を逞(たくま)しう、「田畠は概ね砂礫に埋もれ」てしまい、村民は「財を失うて、衣食に道なく前途暗澹(ぜんとあんたん)」として、酸鼻(さんび)を極め」たそうです。以上のように、当時は大変な状況であったことがうかがいれます。



水害記念碑



明治43年の大洪水